

兄弟姉妹の皆様

私たちのローマのパパ様・故フランシスコ教皇様は今回のシノドスにおいて、「第2バチカン公会議を見直し、立ち戻り、生かしてほしい」とメッセージをくださいました。

2022年待降節から、ミサの式次第が新しくなりました。これも、その新しい流れの一つです。

今回はサンパウロ発行 第2バチカン公会議 公文書全集 南山大学監修「第4章 聖務日課（教会の祈り）」を解説します。

私たちも、ミサや祈りに主体的に関われるように、一緒に学びましょう。

尚、わかりやすい表現を用いるため、多くの資料を参考にさせていただいておりますことをはじめにお伝えしておきます。

主任司祭 ペトルス・ウィリー・ソバ・ドイ O.C.D.

## 第4章 聖務日課（教会の祈り）

### 典礼憲章

④〇 ～第二バチカン公会議公文書より～

**司牧的価値:** 聖務日課は、教会のおおやけの祈りとして信仰心の源泉であり、個人の祈りの糧でもあります。

ですから神さまは、司祭も、聖務日課に参加する全ての人々も、これを果たすにあたって心と言葉を合わせるように深く願っておられます。このことをより良く実現するために聖書と典礼、特に詩編について、より豊かな学びを身につけなくてはなりません。

また刷新を行うに当たって、この聖務を与えられた全ての人々がより深く、しかも容易に、これらを味わうことが出来るように、数世紀にわたるローマ聖務日課の尊敬に値する宝庫を開いて、適応させなければなりません。

**詩編書:** 各時課の基準（前号）にて示した時課の過程を実際に守ることができるよう、詩編はもはや一週間ではなく、もっと長い期間に渡って配分されなければなりません。

幸いにも詩編書の既に着手されている改訂事業が、キリスト教的ラテン語、歌も含めた典礼の慣用、更にラテン教会の伝統全体を考慮した上で、出来るだけ早く完成するよう努めなくてはなりません。

**聖書朗読:** 聖書朗読に関しては、次のことを守らなくてはなりません。

- a) 聖書の朗読は、宝である「神さまのことば」により深く、より分かりやすく近付くことができるように整えられなければなりません。
- b) 教父・教会博士・教会著述家の著作から採用される朗読については、より良く選択されなくてはなりません。
- c) 諸聖人の受難記録・伝記は、歴史的事実に従わなくてはなりません

**賛歌:** 賛歌は、「神話的な事」や「キリスト教の信仰心」に適していないことを取り除いたり、変更し、適していると考えられる全てを本来の姿に復元させなければなりません。

場合によっては、豊かな賛歌の宝庫から他の賛歌を取り入れます。

(つづく)